

欧州 ～メルケル首相のリーダーシップに期待～

経済調査部 首席エコノミスト 田中 理(たなか おさむ)

欧州選挙イヤーのしんがりはドイツ議会選

今年は20年に一度、欧州連合(EU)の二大国、ドイツとフランスの選挙が重なる年だ。4・5月に終わったフランスの大統領選挙では、親欧州・改革派のマクロン大統領が誕生し、欧米各国で広がる反体制・反グローバル化の流れを食い止めることに成功した。9月24日に控えるドイツの連邦議会選挙では、メルケル首相が率いる与党・キリスト教民主/社会同盟(CDU/CSU)の勝利が確実視されている。二大国の政治安定で欧州の政治不安は大きく後退しよう。

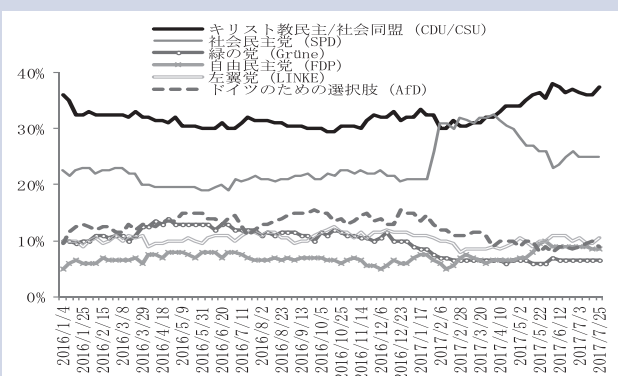
2015年秋に欧州で難民危機が深刻化した以降、一時期メルケル首相の支持が低迷し、反移民を唱える右派政党・ドイツのための選択肢(AfD)が地方選挙で躍進した。だが、難民危機の沈静化と党内の路線対立が表面化したこと、排外主義的な主張がドイツ国民の間で敬遠されたこともあり、AfDへの支持は伸び悩んでいる。また、今年の春先にかけて、二大政党の一角を占める社会民主党(SPD)が支持を急回復し、緑の党・左翼党の他の左派政党とともに連立政権を発足するとの見方が広がった。党勢が低迷していたSPDは、首相候補にシュルツ前欧州議会議長を擁立し、社会的公正を重視する方針に舵を切ったことが好感された。だが、具体策に乏しいとの見方が広がるとともに、シュルツ旋風も下火となっている。

メルケル首相の四選続投が確実視

再任されればメルケル首相は4期目。任期満了時の首相在位期間は16年と、第二次大戦後の復興を成し遂げた「国父」初代首相アデナウアーの14年(4期)を上回り、東西ドイツ再統一を果たし、去る6月に87年の生涯を閉じたコール元首相の16年(5期)に並ぶ。かつて「コールのお嬢さん」と呼ばれたメルケル首相は、今や先進7ヶ国首脳会議(G7)の最古参メンバー。米国トランプ政権の独自路線が目立つなか、自由貿易推進や地球温暖化対策などでも指導力を発揮している。

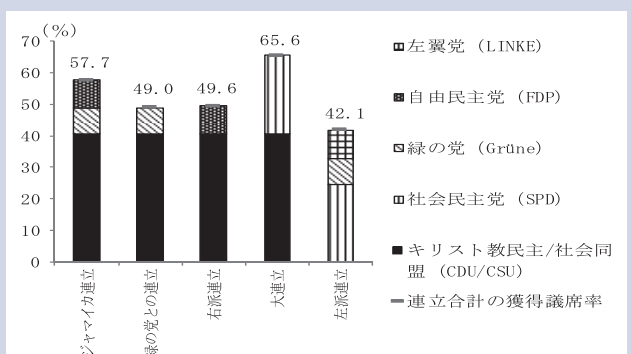
議会選でのCDU/CSUの勝利は揺るがないが、単独での政権発足は困難で、連立相手に注目が集まる。過半数を確保できそうな組み合わせは、SPDとの二大政党による大連立か、緑の党・自由民主党(FDP)との三党連立(各党のシンボルカラーの組み合わせを国旗の色に擬え「ジャマイカ連立」と呼ばれる)が考えられる。緑の党との連立やFDPとの右派連立も過半数に届く可能性がある。経済好調で財政黒字のドイツでは、次期政権下で、所得税減税、旧東ドイツ支援の連帯税の廃止、公共投資の部分的な拡大が予想される。SPDが連立に加わると労働規制の強化、緑の党が連立に加わると環境規制の強化、FDPが連立に加わると事業規制の緩和やEUの財政救済基金の見直しなどが合わせて検討されよう。

資料1 ドイツの政党別支持率調査の推移



(出所) INSA資料より第一生命経済研究所が作成

資料2 ドイツ連立政権の予想獲得議席率



(出所) 各種世論調査より第一生命経済研究所が作成
(注) 7世論調査の最新値の平均に基づく予想獲得議席率